

2018年10月9日

通貨ニュース

ブラジル大統領選挙は右派のボウソナロ氏と左派のハダジ氏が決戦投票へ

10月7日にブラジル大統領選挙の投開票が行われ、右派のボウソナロ氏が46.0%、続いて左派のハダジ氏が29.3%の得票率を獲得し両氏が28日の決戦投票へ進むこととなった。直前の世論調査(Datafolha)では財政改革の継続を掲げるボウソナロ氏が32%の支持率を獲得し、財政拡張政策を志向するハダジ氏(21%)に差をつけていたため、市場ではボウソナロ氏が勝利するとの思惑が拡がり、10月のBRLは4.04台でオープン後、投票日直前に3.83台まで上昇。7日の投票結果でボウソナロ氏が過半数に迫る得票率を獲得したことで、決選投票における同氏の勝利に対する期待が高まり足許のBRLは一時3.71近辺まで上伸した。

7日の第1次投票ではハダジ氏に明確な差をつけたボウソナロ氏だが、決選投票における勝利が確約されたわけではない。各種世論調査によれば、決選投票におけるボウソナロ氏とハダジ氏の支持率の差は2~6%ポイントにとどまっており、その差は僅かとなっている。また、第1次投票で3位となった中道左派のゴメス氏(得票率12.5%)はハダジ氏への支持を表明しており、同氏を支持した票がハダジ氏に流れる可能性がある。さらに不支持率を集計した世論調査(Datafolha)の結果によればボウソナロ氏が45%、ハダジ氏が46%と両者とも高く、ブラジルの有権者は左派と右派に二極化しており、決選投票に向けてどちらかの候補が明らかに優勢となる展開は想定しがたいことを示唆している。

仮に財政拡張策を志向するハダジ氏が当選した場合、財政規律の緩みに対する懸念が強まりBRLは急落するリスクが大きい。購買力平価と実勢値の乖離をみると、アルゼンチン金融危機(2001~2002年)時を除けばルセフ前政権が失策を重ねていた2015年9月に最大で約13%まで割安化が進んだことがある(図表1)。8月時点の購買力平価は3.8台半ばであり、今回も同様に割安化が進むとすれば4.3台半ばまでBRLが下落する可能性がある。一方、当初はポピュリスト候補として財政規律を遵守するか疑義が強かったボウソナロ氏であるが、シカゴ大学で経済学の博士号をもつパウロ・ゲデス氏を政策顧問に迎え入れた結果、歳出削減や国営企業の民営化促進など掲げる経済政策は市場に好感される内容となった。同氏が当選すれば財政改革の継続が見込まれるものの、市場の織込みは進んでおり、購買力平価に基づけば現水準(3.77台前半)は既に割高の水準にある。こうした状況に加え、ハダジ氏が逆転する可能性が残されていることに鑑みれば、決選投票日までのBRLは上値が重い展開を予想する。

国際為替部
マーケット・エコノミスト
佐々木貴彦
03-3242-7065
takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

図表1: BRLの購買力平価および実勢値からの乖離率



出所: ブラジル地理統計院、米労働統計局、CEIC、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、确实性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。